

4 佐藤英行議員

- 1 新たな岩内町総合計画について
- 2 スケソ漁業の振興について
- 3 泊原発から排出される温排水の影響について



1 新たな岩内町総合計画について

市民自治を考える会の佐藤です。3項目について質問をいたします。

まず最初に、新たな岩内町総合計画についてであります。

平成21年度から10年間の新たな岩内町総合計画の前期3年が終了しましたが、実施計画は社会の変化、経済状況の動向等に対応し、必要な変更を伴いながら「将来目指すべき基本方向」「町の将来像」に向かって協働の力をもって実施していくものと理解をしています。

本年、第2回定例会において、私の質問の「前期3年の総括と見直しはいつ実行し、示すのか」に対して、町長は「検討の具体的スケジュール等については、関係部局との検討会議を経て、25年度以降の予算に反映させるとともに、必要に応じて過疎計画の変更による見直しを行う」と答弁をしております。さらに、行政評価の手法の一つとして「行政だけではなく住民参加による外部評価の導入について、調査研究をする」と述べております。

このことを前提に4点質問します。

まず1点目でありますけれども、前期3年の総括の内容はどのようなものか。

2点目でありますけれども、関係部局との検討会議の結果はどのようなものなのか。

3点目、住民参加による外部評価の導入についての進展状況は。

4点目でありますけれども、これらを踏まえて、平成25年度の予算編成するにあたっての基本的課題はどういう内容か。

以上、答弁を願います。

【答 弁】
町 長：

佐藤議員からは、3点にわたるご質問であります。順次お答えいたします。

1点めは、「新たな岩内町総合計画について」、4項目にわたるご質問であります。

1項めの前期3年の総括内容と、2項めの関係部局との検討会議の結果につきましては、関連がございますので、併せてお答えいたします。

平成21年度に策定いたしました「新たな岩内町総合計画」は、計画期間を平成21年度から平成30年度までの10年間とし、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成され、「実施計画」については、前期、中期、後期の3期の計画とし、それぞれの期間ごとに社会・経済情勢に柔軟に対応できるように見直しを行い、実効性を高めることとしており、前期3年を経過した本年度、計画策定後の最初の見直しを行う年であります。

総合計画における「実施計画」は、各担当分野で策定している個別計画のほか、主に過疎計画の登載事業を基本としており、毎年度、ローリング方式で計画状況を確認する作業を行い、事業の進捗状況や達成率を確認し、更には財政状況を踏まえた中で、今後の計画事業の必要性の検討を行うこととしております。

そこで、前期3年の総括として、過疎計画の登載事業の進捗状況及び達成率を見ますと、平成21年度分の計画では、34事業に対し実績は、31事業となっており、予算ベース上での達成率は95.0%、平成22年度分の計画では、49事業に対し実績は、51事業、予算ベース上での達成率は95.5%、平成23年度分の計画では、58事業に対し実績は、61事業、予算ベース上での達成率は106.5%となっており、事業年度のスライド等はあるものの、概ね計画どおりに進んでいるものと考えております。

しかしながら、社会や経済の情勢がめまぐるしく変化する今日、行政や住民を取り巻く諸情勢も例外ではなく、緊急的・突発的な事業などに対応する際は、事業担当課、財政担当を含めた中でヒアリングを実施し、過疎計画に登載すべき事業と判断された場合は議会に上程し、実施計画の基礎となる過疎計画を変更させていただいているところであり、今後につきましても、これまでと同様に進めて参りたいと考えております。

3項めは、住民参加による外部評価の導入についてであります。

住民参加による外部評価の導入につきましては、引き続き調査を行っているところであり、近年策定された他の自治体の総合計画を見ますと、外部評価を取り入れている自治体が増えております。

また、最近では、計画を首長の任期に合わせ、前期4年、後期4年に分けた計画を策定するといった自治体もあり、計画の期間を含む総合計画そのものが、色々な観点から、改革する時代に突入しており、私としては、計画の策定準備、素案を策定する段階から、P・D・C・Aプラン～計画を立案する、ドゥ～計画を実施する。チェック～状況を感じ、確認し評価する。アクション～状況を修正する行動を行う。改善する。といった一連の流れを、実施計画に位置づけることにより、更には実効性が高まるものと考えており、そのひとつの「チェック」機能として、住民の方々に参加していただき事業の評価をしていただく。といったことを、実施計画の中に取り入れたシステムを構

築する必要があるものと認識しております。

そうした考えの下、外部評価の導入を前提に総合計画を策定した先進地自治体のヒアリング等を実施しながら、更に研究を進めて参りたいと考えております。

4項めは平成25年度の予算編成の基本的課題であります。

平成25年度の予算については、景気低迷による所得の伸び悩みや人口減に伴い、町税を含む一般財源の縮減も避けられない中、社会保障と税の一体改革など、今後見込まれる各種制度改正や社会保障費の自然増、更には役場庁舎など大型事業が予定されており、資金管理を中長期的に見通す中で、計画的な財政運営を行う必要があることから、これまで同様、歳入に見合った歳出を基本に、平成25年度の予算編成の基本方針としております。

このため、継続事業については、これまでの進捗状況と効果、今後の展望、また、新規事業については、過疎計画に登載されている事業を基本としながら、必要性、効果などを充分踏まえる必要があるものと考えております。

< 再質問 >

新たな岩内町総合計画の関係でありますけれども、住民参加による外部評価の導入ということで、えー引き続き調査をするとでさらに又、研究するという答弁がありました。それは今の平成30年までのこの総合計画の中にその結論を出して頂けるのかどうか。

先程のプラン、ドウ、チェック、アクションの関係を言いますと、最初にこの論議がなかったわけですが、今こういう論議で町長からの答弁おいても一調査研究するという答弁がありましたので、えー今第2期に入った段階でこの評価をするような形で努力を頂きたいと思っておりますのでいかがですか。

【答 弁】

町 長：

佐藤議員の再質問にお答えいたします。

3点にわたる質問であります。

順次、お答えいたします。

1点めは、新たな岩内町総合計画の見直しにかかる、外部評価の導入時期についてであります。

外部評価については、実施計画の実効性を高めるための重要な手法と認識しており、現在の計画期間の中で導入できるよう、他自治体の状況もヒアリングしながら、検討してまいりたいと考えております。

< 再々質問 >

1点目については、導入できるような方向で進んで頂きたいなと思っております。

2 スケソ漁業の振興について

次に、スケソ漁業の振興について。

第一次産業は二次産業を興し、第三次産業に波及させる人間社会にとって最も基本的な産業であります。漁業も然りであります。

岩内町における漁業も大きな経済的波及を起こすものであることは当然であります。スケソ漁も様々な職種に雇用の場を提供しております。漁具、加工場、運搬等々。かつては冬期間の農業者などに雇用の場を提供し、地元経済はそれなりに循環していたと理解しております。品質が日本一と自負する岩内産のタラコは延縄の釣りによる漁法で品質を保証されており、また、鮮度の良いスケソでなければできない、近年評判が高くなってきたタチカマも然りであります。

また、岩内町のマスコットキャラクターとして、たら丸、べに子も人気があり、各種イベントに引っ張りだこであることはご承知のとおりであります。

スケソ漁業が減退することは、延縄を準備するもろもろの作業や、漁船員、また、加工場での加工技術および「みおろし」をする女工員の技術、流通業等々に影響を及ぼします。

廃業になれば全てが無に帰します。

本年第1回定例会で金沢議員からの「漁業対策」の質問で、町長は「町としてスケソ延縄漁業への支援については、スケソ延縄漁業を含め、多種多様な漁業形態があり、ただちに具体的な支援を行える状況にない」との答弁でしたが、補正予算でスケソ延縄漁具改良事業費の補助を行っており、このことについては評価するものであります。

そこで、3点質問します。

1点目は、これほどまでにスケソウダラの漁獲量が減少したのはどのような原因によるものなのか。

2点目は、スケソ漁業の低迷打破し振興するために、岩内町としてどのような考えをもっているのか。

3点目は、本年、スケソ延縄漁業に漁具改良事業に補助をしているが、来年度は、さらに、その補助事業を強化し、出漁する全延縄に漁具改良にかかる資材費に補助をする考えはないのか。

意のある前向きな回答をお願いいたします。

【答 弁】
町 長：

2点めは、スケトウダラ漁業の振興について3項目のご質問であります。

1項めは、スケトウダラ漁獲量の減少原因についてであります。

岩内海域を含む、日本海北部系群全体のスケトウダラの資源量については、平成3年頃までは、多少の年変動はあるものの、約50～60万トンで推移しておりましたが、それ以降急激な低下を示し、現在では約10万トン前後の資源量となっており、漁獲量も約12万トンから1万トン前後に減少しております。

この原因については、中央水産試験場によりますと、昭和61年頃から、産卵する親のスケトウダラ個体数に比較して、新たに生まれ、未成魚として加入するはずの個体数が大幅に減少するという状態が続き、そこに過剰な漁獲などにより、産卵する魚の、さらなる減少に拍車がかかり、結果として平成3年以降の急激な資源量の低下を生じさせたのではないかとということであり、こうした資源量の変化に連動した形で、岩内海域でのスケトウダラ漁獲量が減少しているとのことでもあります。

しかし、どのような原因で、新たに加入する個体数が減少したのかということについては、現状ではよくわからないものの、最近の研究では、地球温暖化などの、ゆっくりとした時間スケールで起きている、地球規模の環境変動が関係しているといわれているとのことでもあります。

2項めは、スケトウダラ漁業の低迷を打破し振興するための、岩内町としての考え方であります。

町の基本的な考え方といたしましては、スケトウダラ漁業の振興のためには、日本海北部の広範囲な海域を回遊するという、スケトウダラの特性を考慮し、日本海北部系群資源の、科学的・広域的な保護管理が必要・不可欠であると考えております。

このためスケトウダラ漁業については、平成9年から国において、毎年、生物学的な調査結果から算出される、漁獲資源量水準をもとに、漁獲許容量いわゆるタック（TAC）を定め、日本海北部系群全体の資源管理が行われているところであり、この制度が、漁業者の経営改善に資する運用が行われるよう、注視していくとともに、さらに有効な施策の必要がある場合には、その具体化について北海道等に対し要望してまいりたいと考えております。

3項めは、本年度実施しておりますスケトウダラ延縄漁業漁具改良事業費補助事業の来年度への対応についてであります。

本事業については、平成23年度のスケトウダラ延縄漁業が記録的な不漁となり、延縄漁業者単独では、深い水深に生息するスケトウダラ魚群に対する漁具改良が、困難な状況となったことから、本事業を実施したところであります。

来年度の本事業への対応につきましては、漁具の改良が、スケトウダラ漁獲量に対して、どのような効果を与えたのかという点を把握し、その結果から、事業の実施効果の検証を行うことが重要と考えております。

さらに、スケトウダラ延縄漁業は、町の礎を築いた重要な漁業であります。この他にも町には多種多様な漁業形態があり、何れも、現在の町の経済振興に一定の役割を果たしているところであります。

従いまして、ある特定の漁業形態に対して支援を行うことについては、ま

ずは、漁業協同組合の意向を確認することが重要でありますので、このことも町として十分配慮しながら、来年度の対応について判断してまいりたいと考えております。

< 再質問 >

次に、スケソ漁の漁業の振興の関係でありますけれども、まあ地球規模の関係ということで、明確にわからないということでもありますけれども、ただスケソ漁の振興についてはあくまでも北海道に要望するという答弁ありましたけれども、岩内町としてどうするのか。まあ今年は3隻、出てるんですけども、岩内町の顔であるうー、礎を作ったスケソ漁について、岩内町としてどうゆう施策を持って行くのかということでもあります。

その答弁をお願いいたします。

【答 弁】

町 長：

2点めは、スケソ漁業を振興するための、岩内町としての取り組みについてであります。

先にご答弁いたしましたとおり、町には多種多様な漁業形態があり、町の経済振興に一定の役割を果たしておりますので、特定の漁業形態に対して、支援を行うことについては、漁業協同組合の意向を確認することが、重要と考えております。

< 再々質問 >

それと、2点目なんですが、あー多種多様な漁業形態があるので町としては、あの一一定の魚種についての補助は難しいとの答弁でありますけれども、あの一スケソ漁に関しては先程述べましたように、岩内にとってはやはり基幹となるこれから岩内の顔となる今までもなっている魚種であります。

で、やっぱり事業については選択と集中と言うことが今非常に求められております。

一定方向に集中して選択してやるという、これが岩内町のベースになるんだよという事業が必要になると思いますので、これは漁組との協議を最大限事務局の中で協議して頂いてスケソ漁の存続について力を町として最大の力をえー、もってってもらいたいなと思います。

3 泊原発から排出される温排水の影響について

次に、泊原発から排出される温排水の影響についてであります。

北海道電力泊原発1号機は1988年初臨界、翌1989年から営業運転開始、2号機は1990年初臨界、翌1991年から営業運転、3号機は2009年初臨界12月から営業運転開始、そして2011年に1、2号機が定期点検に入り、2012年5月には3号機が定期点検に入り、泊原発がすべて止まりました。

その間、1、2号機はそれぞれ毎秒40t、3号機は毎秒66t、取水した海水より約6.7℃高い温度の温排水を垂れ流し続けてきました。

これまでの膨大な量になる温排水は自然界の生態に影響をきたしているのではないかと思います。3～5度が産卵適温とするスケソウダラにも影響されているのではないかと思います。

1号機が営業運転に入った1989年の岩内町のスケソウダラの漁獲量は7,239t、北海道調1月～12月調べ、翌年は47.2%減の3,825t、2号機が営業運転に入った1991年は3,141t、翌年は38.8%減の1,923t、以後、この数字を維持するどころか漁獲量はどんどん減少していきま

した。3号機が営業運転に入ったのは2009年12月22日の翌年は413tで翌2011年、つまり昨年は19.2%減の232t、岩内郡漁協2011.4～2012.3の調べ、まで落ち込んでいる。

回遊性魚類であるスケソウダラは、泊原発が営業運転するごとに次の年の漁獲量が著しく減少しているのである。

原発から出される温排水が何かしらの影響を及ぼしていると考えます。そこで、お伺いします。

全ての泊原発が停止している現在、温排水は排出されているのかどうか。

排出されているとすればどのような理由で量はどのくらいか。

泊原発営業運転後のスケソウダラ漁獲量の減少の原因をどのように考えているのか。

以上3点であります。

よろしく回答お願いします。

【答 弁】
町 長：

3点めは、泊原発から排出される温排水の影響について、2項目のご質問であります。

1項めは、泊原子力発電所の全機が停止している現在、温排水の放出の有無と放出量についてであります。

泊原子力発電所については、本年5月に3号機が定期検査に入り、現在、全機が停止しておりますが、使用済み燃料ピットなど、運転の有無にかかわらず、冷却が必要となる機器があることから、海水を取水して冷却の後、海中へ放水しているとのことであります。

取放水の量についてであります。1・2号機は、原子炉内に燃料が装荷されていることから、3号機よりも取水量が多く、毎秒、約14トン、3号機は、毎秒、約2トンとなっております。

2項めは、泊原子力発電所営業運転後のスケトウダラ漁獲量の減少原因についてであります。

漁獲量につきましては、昭和57年をピークに減少傾向に転じ、ご質問にありますように、1号機から3号機の営業運転開始の翌年は、漁獲量が減少しておりますが、一方では、前年を上回る漁獲量の年も見受けられるところでもあります。

いずれにいたしましても、漁獲量の減少については、2点めのご質問でもご答弁申し上げましたように、岩内海域を含む日本海北部系群全体の資源量も減少しており、その原因については、現段階でも明確にはなっていないとのことでもあります。

< 再質問 >

3つ目でありますけれども、まあスケソ漁獲量の減少のあの一原因をどうするかということでもありますけれども、あくまでも日本海北部という言い方をしておりますけれども、泊原発1号がまあ営業運転に入ったスケソダラの先程も言いましたが、あー7, 239トンであります。で昨年がそれに232トンであります。まさにこの一営業ができるかどうかの瀬戸際まできていると思います。

昨年スケソ漁をしていた漁業の方が、スケソ漁を今年はあの一、去年が悪かったのではないということも聞いております。

で、岩内郡漁協の年度で言いますと、2008年はそれでも先程町長からもありましたが、増えた年もありましたが、おー1, 011t、21年度486t、そして22年度は656tということで、それが昨年232tであります。で今年5月に3号機が止まりましたけれども、おー今の漁獲量どうなのかということ、まあ時化の関係もありますけれども、11月28日現在では昨年の同期に比べて1.65倍の漁獲量があると聞いております。この結果からも温排水が影響しているのではないかと考えられますけれども、スケソダラのおー、漁獲量の減少原因はよくわからないということでしたけれども、その原因調査を町として要請する又あるいはすべきだと思いますが、その辺の答弁をお願いします。

【答 弁】

町 長：

3点めは、スケトウダラ漁獲量減少の原因調査をすべきとのご質問であります。

漁獲量の減少については、岩内海域を含む日本海北部系群全体が減少しており、こうした背景のもと、国において原因を探求するべく、平成21年度から研究が進められ、特に、平成23年度から5年間にわたり、スケトウダラ資源の変動要因分析調査が開始されており、この調査結果を注視してまいりたいと考えております。

< 再々質問 >

それと最後の関係でありますけれども、まあ今国で調査をしているという事ですので、えーこれについては推移を見守りたいなと思いますけれども、いずれにしましても、温排水が出てからあー漁獲量が下がってるのはこれは統計的な事実でありますので、その事実を踏まえた中での、おー調査もまたしてもらいたいなと思います。

石狩湾から北の北部の日本海のスケソの群れのみならず、岩内湾近辺は毎年漁獲量、あるいは資源量を調査しておりますので、その調査の推移もきっちり把握した中でえーその一原因を捕まえてほしいなと思います。

特にかつては200mというより深いところのスケソということでありましたけれども、今では350あるいは400よりもっと深いところにスケソが生息しているという資源の調査もありますので、その辺の含めた調査をこれから町としてもしっかり把握してえースケソ漁についてはあの一温排水の影響があるのか、ないのかを見極めてもらいたいなと思います。以上まあ一要望と言うことでえーございます。 終わります。